

ニセコ

北海道

ワイスホルン

1994年12月31日 曇りのち雪
メンバー：小森宮 秀昭

アクシデントでツアーに行けなくなった岩さんの薦めで、簡単に楽しめるというこのコースに一人で出掛けることになった。リフト終点に着くと、ガスの切れ目からアンヌプリの頂上も見えだした。ひらふスキー場から稜線を目指しツボ足でラッセルするスノーボーダー達を横目に見ながら、膝位の新雪をニセピーへ向かう。頂上の避難小屋に着くと、北側の尾根方向は時々ガスの切れ目からH700m付近の道路が見えていた。なんとか行けそうなので、小屋の中でシールをはがし、北側の広い尾根を滑り出す。ところが1ピッチも滑らない内に、またガスが出てきて今度は視界が100m程に落ちてしまう。尾根通しに直線に近いルートとはいえ、コンパスでしきりに方向を確認しながらの滑りで、折角の、すね程の新雪に100%酔う余裕が出てこない。H985m地点から下は次第に林間の滑りとなる。H850m地点でしばらく様子をうかがっていると、ガスの切れ目から一瞬、五色温泉への雪に埋もれた道路が見えた。H730mの台地状までひと滑りし、広い台地上をシールで進む。H699mの道路の曲がり角を目印にして方向をつけ、緩傾斜のヤブと細木の間を滑るともなく進むうちに、H520mの橋近くの道路に出た。ワイススキー場はすぐそこだった。ここで硫黄川を渡る橋から、川の埋まり具合を見るが、この時期このあたりでは、シールでそのまま渡れる所は無さそうだった。もっと上流で

も渡渉が必要になるのだろうか？（深さは大したことは無さそうだが。）スキー場のリフトで最上部まで行ってみると、ワイスホルンはガスの中だった。視界が届く所までとシールで登り始める。H1030m地点まで行った所で急に視界がひらけ、ニセコアンヌプリからイワオヌプリ、チセヌプリ、シャクナゲ岳…目国内岳方面まで一望できた。程なく着いたワイスホルンの頂上からは、またガスにまかれ始めたので、周辺にひろがっているであろう好スロープをあきらめ、登ってきたトレースを外さずにスキー場まで戻ることにした。なだらかなゲレンデを飛ばして、下のレストハウスに着く頃には本格的に雪が降り始めてしまった。今更ゲレンデを滑る気にもなれず、倶知安行きの日一本きりの無料送迎バス（15：30スキー場発）をのんびりと待つ。（尚、H1030mから南東にのびた尾根は、ゲレンデ案内では半分以上がゲレンデ化されているようだった。）（小森宮 記）

タイム：東山スキー場リフト終点H1150m9：40→ニセコアンヌプリH1308m10：20／：40→H800m10：48→H700m10：50／11：00→H690m11：40→H650m道路12：00／：05→ワイススキー場H523m地点の温泉側12：10／：35→リフト→リフト終点H925m13：10／：15→ワイスホルンH1045.8m13：35／：45→H1030m→ゲレンデ→レストハウスH440m14：00／15：30→無料バス→JR倶知安駅16：15

